



kanamoto ■ カナモトエグザミナー

examiners

株主の皆様ならびに投資家の皆様へ



vol.41

第43期(2007年10月期)第3四半期号

ニュースハイライト●第43期第3四半期財務・業績の概況

株主様からのご質問に答えるQ&Aコーナー●取扱商品のご紹介●株式情報

猛暑も吹き飛ばした花火大会もお手伝いしました

全国各地で、最高気温を更新したこの夏。札幌もホントに北海道かと疑いたくなるくらい蒸し暑い日が続きました。その暑い夏を吹き飛ばすのが花火大会。ドーンと体を揺さぶる爆発音、夜空に咲き乱れる大輪の花々。暑さを忘れて見とれてしまいますよね。札幌の花火大会は、市中を流れる豊平川で3週連続して開催されるのがウリでしたが、今年は7月20日金曜日の道新・UHB花火大会と、27日の朝日新聞・HTB花火大会の、いつもより1回少ない2回。残念。

玉屋、鍵屋と歓声を上げて花火を見つつ缶ビールをキューツとやると、必ず行きたくなるのがトイレ。ほろ酔い気分に着慣れない浴衣でおぼつかなしい帰り道、足元を照らしてほしい照明機器…。今年もちゃんとご用意しました。建設現場だけじゃなくてイベントも陰で支えるカナモトでした。☑



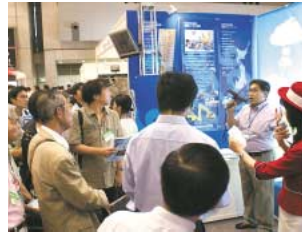
道新・UHB花火大会2007

今年も日経IRフェアに出展しました

8月31日、9月1日に東京ビックサイトで行われた日経IRフェアに、今年も出展いたしました。IRフェアへの出展や個人投資家向けの説明会を行っていることもあって、ブースにご来訪いただいた多くの方に「カナモトを知っている」



会場で実施した個別会社説明会



木村佳子さん（手前右手の帽子の方）によるブースツアー

とお答えいただきました。順調に推移している業績、建機レンタルと建設業全体の環境、好調な海外中古建機需要などさまざまなご質問をいただきました。31日の個別会社説明会は満員御礼となり、多くの個人投資家の方が説明に耳を傾け、終了後にブースにお越しいただき、当社への投資を前向きにご検討いただいている感がひしひしと伝わって来るほど。翌日1日の株式評論家木村佳子さんのブースツアーでも、カナモトのブース前には人垣ができ、建機レンタルビジネスについてのご説明をさせていただきます。投資家の方々や直接触れ合う機会を大切に、これからもIRフェアへの出展や説明会の開会など、継続してIR活動を実施してまいります。☑

個人向け説明会を首都圏で連日開催しました

皆様に待望されておりました首都圏での個人投資家向け説明会を開催いたしました。当社の主幹事証券会社である野村證券様にご協力いただき、7月3日に野村証券横浜駅西口支店、7月4日同立川支店、7月5日同渋谷支店で開催いたしました。横浜駅西口支店は野村証券の中でも国内トップクラスの集客力を誇る支店で、200名近い投資家の方々にお集まりいただき、大変熱気ある雰囲気の中での説明となりました。渋谷支店でも100名を越す投資家の方々が、そして立川支店では80名程

度の投資家にお集まりいただきました。さらに、9月6日には大和証券本店で、世界インフラ関連株セミナーと合同で当社説明会を行いました。台風が接近する悪天候でしたが、当社の業績や事業環境に関するご質問を頂戴するなど、有意義な会となりました。今期はすでに9回の個人投資家向け説明会を実施しておりますが、今後も引き続き全国各地で開催を計画しております。今後のスケジュールについては当社HP、IRサイト（www.kanamoto.ne.jp）をご覧ください。☑

上海金和源設備租賃有限公司 中国の大手建設会社とレンタル合作基本契約

上海金和源設備租賃有限公司（以下：上海金和源）の設立に関するプレスリリースを發表させていただいたのが昨年8月31日、あれから早いもので1年が経ちました。その上海金和源の近況ですが、7月26日に中国上海市内のルネッサンスホテルにおいて、上海金和源が上海建工集團のグループ会社「上海市機械施工有限公司」とレンタル合作基本契約書を調印いたしました。

レンタル合作基本契約の目的と内容

レンタル合作基本契約は日本で言うアライアンス提携に当たり、今後の工事増加に伴う機械需要の増加への対応を考える上海市機械施工有限公司と、中国で建機レンタル事業を進める上海金和源の両社が結んだ契約内容は、上海市機械施工有限公司の必要とする機材一式を上海金和源が準備するものです。多少おごった表現になりますが、上海金和源が上海市機械施工有限公司の機材調達部門の一角を担うというものです。



握手を交わす当社社長と上海市機械施工有限公司 張董事長

上海市機械施工有限公司とは

上海市機械施工有限公司は、中国でも有数の建設コンサルティングの上海建工集團の完全子会社で、基礎関連工事を主力とする会社です。親会社の上海建工集團は、上海市のほか中国国内に留まらず、世界各地で多くの建設に携わる大手建設会社で、完工高は210億人民幣(約3,000億円)にのぼります。同社グループでは、テレビ中継などでもよく見かける東方テレビ塔や、リアモーターカーの下部構造など、上海のランドマークとなる建造物を多く手掛けています。



調印式に出席した両社幹部社員

さて、設立から早11ヶ月。そこでこれまでの機微を同社総副經理（副社長）の関八彦に聞きました。

「本格的に業務を開始してから半年が過ぎようとしております。開業当初は11名でのスタートでしたが、現在は21名に増員。人数が増えて手狭になったこともあり、この10月にオフィスが上海世紀公園近くのビルに移転しました。レンタル資産は顧客ニーズに合わせてながら順次増強して、売上も堅調に推移しております。上海地区においては日本でもニュース等でご存知のように2010年に開催される上海EXPOの関連工事や地下鉄工事等々の、インフラ整備事業が急ピッチで進められ、街全体が工事現場の様相で、当社も上海発展に寄与すべく奔走しております。

先般、中国6番手の大手建設会社の子会社である上海市機械施工有限公司とのレンタル合作基本契約を締結。さらにカナモトに並び当社の中国側の親会社である米源実業が上海EXPOの設備レンタル部門のサプライヤーライセンスを取得するなど、関係企業共々一層の業務拡大が予想され、先行きの明るい材料が揃いつつあります。」

「小さく生んで大きく育てる」を標榜しておりましたが、設立間もない上海金和源に想像を超えるビッグビジネスが舞い込んで来ようとしています。このアライアンスが上海金和源の飛躍にとって大きな一歩となる筈。今後ますますの活躍が期待されるところで。



新たに移転した本社のオフィスビル

レンタルもひとつのEco - 環境広場さっぽろ -

8月3～5日の3日間、アクセスサッポロ（札幌市白石区）で「環境広場さっぽろ」（主催：札幌市）が開催され、当社も出展いたしました。未来の地球とエネルギーを考える総合環境イベントとして、道内外100社以上の企業や団体が集まるもので、来場者数は3日間合計で5万人を数え、当社ブースには、次世代を担う子供達も含めた多くの方々に訪問していただきました。

当社も「地球に優しく、人に優しく。地球の未来を見守れる企業になりたい」をテーマに、取扱商品の電気自動車の「コムス」、アスベスト関連機器、本誌38号でもご紹介

した「Eco-eco system」など地球に優しいアイテムを展示。レンタルというサービスそのものが「ひとつの機械をシェア」することで環境負荷への低減につながる環境にやさしいビジネスであることを認識していただけるようご説明いたしました。☑



たくさん子どもたちで賑わった当社ブース

金沢、糸魚川、旭川に新拠点を開設しました

8月6日、石川県金沢市に金沢営業所を、同月17日には新潟県糸魚川市に糸魚川営業所をそれぞれ開所いたしました。金沢、糸魚川の両営業所とも、一度は閉鎖したものの新たな需要が見込まれること、



8月6日に再開所した金沢営業所



旭川1条通東店は9月28日に開所

加えて地元の皆様からご要望をいただき開設したものです。このほか、9月28日には北海道第二の都市・旭川市中心部に旭川1条通東店を開設。カナモトの拠点としては数少ない市内中心部の立地で、市内中心部の工事に対する営業・フォローアップ体制を考慮した拠点です。厳しい環境の続く北海道ですが、お客様重視のサービスをご提供することで、より多くの皆様にご利用いただけるよう努めてまいります。

各拠点の地図については、弊社HP(<http://www.kanamoto.co.jp>)をご覧ください。☑

社内研修制度のひとつ、所属長研修が実施されました

7月の中旬から3回に分け、全国の営業所長を対象とした所属長研修が本社で行なわれました。

研修は、ロールプレイングを中心にした実践のほかユーザー毎、現場毎に分類した対応等、これまでに培ってきたノウハウを全員が共有できるようにセミナー形式で講義。参加者もより理解を深めていました。

社長の講和では、経営学者・ドラッカーの経営哲学を

例に顧客にソリューション(解決策)を提示する大切さを通し「会社」の存在意義、組織のあり方を所長一人ひとりに伝えていました。真剣な面持ちの彼等に、これからの『カナモト』を背負う決意を見たようでした。☑



9月20日に通期業績予想の修正のほか、増配と株主優待について発表しました

1件目の「特別利益発生に伴う通期業績予想の修正」の理由は、年金制度変更に伴い引当金取崩益が計上されるためです。修正後の業績予想数値は、小誌本号6Pに掲載しておりますのでご覧ください。2件目の「期末配当の増配」は、今期末配当を2円増配（特別配当）し年間20円配当とするもので、本件は来年1

月下旬に開催される株主総会に付議されます。3件目の「株主優待制度の新設」は、小誌アンケートでも以前からご要望のあった株主優待制度を、東証一部昇格10年を記念して、今期から実施することといたしました。気になる株主優待制度の詳細については、P10のQ&Aコーナーでご紹介させていただきます。☒

サンクスフェア開催報告

毎年恒例となったサンクスフェア。3月の中標津営業所にはじまり、9月の旭川営業所まで、北海道・東北地区を中心に14拠点で開催させていただきました。当初、旭川営業所での開催予定はなかったものの、たくさんのお客様からご要望をいただき、急遽開催する運びとなったものです。

その旭川サンクスフェア。東日本を縦断して北海道にも上陸した台風9号の影響も考えられましたが、心配をよそに大変北海道らしい秋晴れの中開催することができました。開催にあたり、金本龍男北海道地区統括部長が、「地域社会に感謝の気持ちを込めてサンクスフェアを開催しています。お客様にはリーズナブルな価格を喜んでい

ただき、子供たちにはイベント、そして普段は見ているだけの建設機械に乗って触って、目一杯楽しんでもらいたい」と挨拶。今年これで終了になりますが、来期は関東や関西でも計画をしているようです。お楽しみに。☒



たくさんの人にお集まりいただきました(旭川営業所でのサンクスフェア)

次回イベントのお知らせ

第10回 ノムラ資産管理フェア

2007年11月30日(金)～12月1日(土)の2日間、国際フォーラム(東京・有楽町)で個人向投資家向けのIRフェアが開催されます。当社をもっともっと知っていただくために、今年も出展いたします。

「ECO-MAnufacture2007 製造業環境・エネルギー対策展」[略称:ECOMA(エコマ)]

2007年11月6日(火)～9日(金)の4日間、東京ビックサイトで開催され、当社は「アスベスト・安全対策」ゾーン

に出展いたします。当社が進めておりますアスベスト対策関連機器をメインとした展示内容となり、高額なアスベスト機器をレンタルで提供することで、コスト削減のお手伝いを提案させていただきます。入場は無料(事前登録制)となっております。

その他会社説明会、イベント出展情報につきましては、当社HP(www.kanamoto.co.jp)に随時ご案内させていただきます。☒

第43期第3四半期財務・業績の概況 [2006(平成18)年11月1日から2007(平成19)年7月31日まで]

経営成績(連結)の進捗状況と業績予想

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期(当期)純利益 (百万円)	EPS (円)
43期第3四半期	52,237 (4.0)	3,687 (20.7)	3,915 (33.4)	2,592 (138.1)	78.90
42期第3四半期	50,226 (8.3)	3,054 (—)	2,934 (—)	1,088 (—)	36.48
(参考)42期通期	68,023 (—)	4,068 (—)	3,788 (—)	1,742 (—)	57.41
通 期(予想)	68,700 (1.0)	4,600 (13.1)	4,700 (24.1)	2,400 (37.7)	73.05
9月20日修正予想	68,700 (1.0)	4,600 (13.1)	4,700 (24.1)	3,150 (80.8)	95.88

(注) 第43期第3四半期財務・業績の概況を9月7日に発表後、9月20日に再度、通期業績予想の修正を発表いたしました。修正部分は青色で記載しております。

(注) 売上高、営業利益、経常利益、四半期(当期)純利益におけるパーセント表示は、対前年同期増減率を示しております。

連結経営成績に関する説明

経営環境

当第3四半期の日本経済は、首都圏を中心に地価が僅かながら上昇するなど景況感も回復傾向を示しましたが、サブプライムローン問題を発端に、堅調だった輸出関連産業に陰りが見え隠れするなど先行きに不安を残しました。

一方、個人消費も、優遇税制廃止による実質的な収入減に加え、原油高騰による生活コストの上昇が響き低迷するなど、これまでの地域間格差の溝は一向に埋まらないままでした。当社ユーザーである建設関連産業でも同様に、地方では相変わらず厳しい経営環境が続きました。

第3四半期の業績と期初からの累積業績結果

当該期間は建設需要の端境期と重複していますが、主力事業の建設関連事業では、建機レンタルの地道な需要掘り起こしが奏功して当初計画どおりに堅調に推移。また、同事業による販売についても計画どおり推移しました。

鉄鋼製品販売事業は道央圏のマンション需要が一段落したことから、また、情報通信関連事業はPCレンタルが好調だったものの、販売売上は搭載ソフトに対する顧客不信から新型機が買い控えられて伸び悩んだため、両事業ともに売上高が前年同期比を下回りました。

以上の結果、平成19(2007)年10月期第3四半期までの累

積連結業績につきましては、連結売上高が522億37百万円(前年同期比4.0%増)となりました。

一方、利益面では、レンタル用資産の運用効率の向上と減価償却負担軽減など、前年に続き施策効果があったことに加えて、中古建機市況が好調であったことから利益率が改善し、連結営業利益は36億87百万円(同20.7%増)となりました。また、保有株式ならびに所有不動産の売却益なども加わり、連結経常利益は39億15百万円(同33.4%増)、第3四半期連結純利益は25億92百万円(同138.1%増)と前年同期実績を大幅に上回りました。

財政状態(連結)の変動状況

	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	自己資本比率 (%)	一株当たり総資産 (円)
43期第3四半期	87,121	39,941	45.8	1,215.93
42期第3四半期	83,639	34,676	41.5	1,162.02
(参考)42期通期	86,815	38,051	43.7	1,155.22

連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	現金及び現金同等物 期末残高 (百万円)
43期第3四半期	4,161	△1,218	△1,724	19,617
42期第3四半期	6,885	△151	△3,368	17,473
(参考)42期通期	8,414	△489	△3,635	18,398

通期業績予想の修正について

第3四半期の財務・業績の概況を発表した後、9月20日付で通期の業績予想を修正させていただいております。これは当社の年金制度の変更に伴い、退職給付引当金取崩益845百万円が個別ならびに連結の特別利益に計上されることから、6月に修正発表し、9月の第3四半期財務・業績

の概況でもお知らせした業績予想のうち、連結・個別それぞれの当期純利益を修正いたしました。なお、連結・個別それぞれの売上高、営業利益、経常利益の予想については、今のところ変更の予定はありません。

特記すべき事業展開と拠点新設閉鎖の状況

当該期間における拠点の新設閉鎖は、6月に広島営業所(広島市安佐南区)1カ所を新設したほか、閉鎖はありませんでした。また、北海道で安全保安機材等のレンタルを展開している株式会社アシスト(代表取締役社長:木村富津夫 本社:北海道小樽市)の発行済株式のすべてを5月1日付で追加取得して完全子会社化いたしました。

なお、第4四半期に入ってからになりますが、金沢営業所

(石川県金沢市) 糸魚川営業所(新潟県糸魚川市)をそれぞれ開設したほか、海外では、上海金和源設備租賃有限公司(邦文名称:上海金和源設備レンタル有限公司)が7月に、中国上海市で一大コンツェルンを形成している大手ゼネコンである上海建工集団(董事長:蒋志権)の子会社の上海市機械施工有限公司(董事長:張立新)と、建機レンタルを主体とした業務提携を締結いたしました。

連結業績予想に関する定性的情報

この業績予想については、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の経済環境予想等に基づいて予測し作成したものであり、リスクや不確定要素が含まれております。従

いまして、実際の業績は、当社を取り巻く経済情勢、市場動向、競合状況等、今後様々な要因によって、記載の金額の予想数値と異なる可能性がありますのでご承知おきください。

連結財務諸表

連結損益計算書

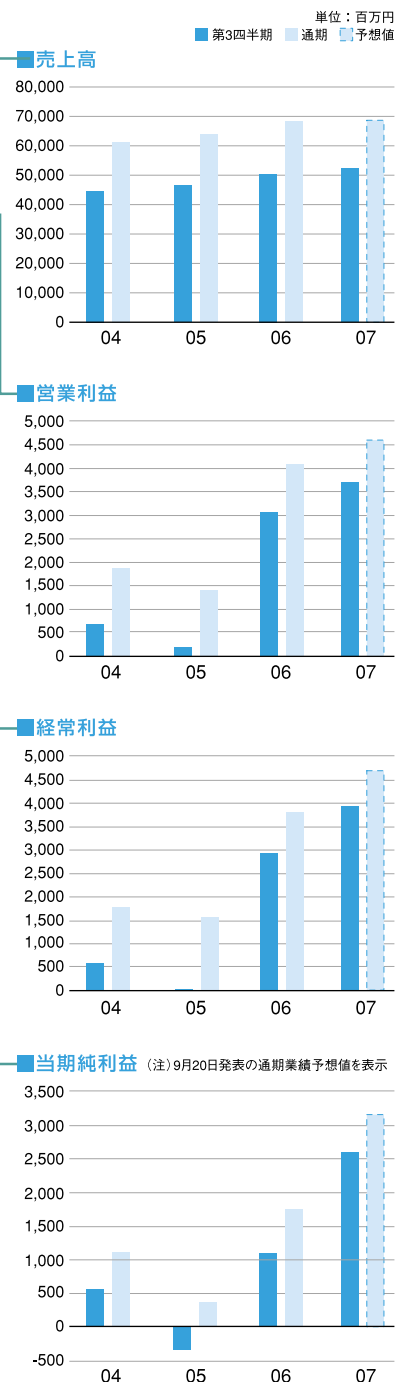
	第42期第3四半期 (2005.11.1~2006.7.31)	第43期第3四半期 (2006.11.1~2007.7.31)
① 売上高	50,226	52,237
売上原価	36,699	37,424
売上総利益	13,526	14,813
販売費及び一般管理費	10,471	11,126
② 営業利益	3,054	3,687
営業外収益	249	614
営業外費用	369	386
② 経常利益	2,934	3,915
特別利益	38	949
特別損失	645	92
税金等調整前四半期純利益	2,327	4,772
法人税、住民税及び事業税	1,146	2,022
法人税等調整額	71	158
少数株主利益	20	—
② 四半期純利益	1,088	2,592

連結キャッシュ・フロー計算書

	第42期第3四半期 (2005.11.1~2006.7.31)	第43期第3四半期 (2006.11.1~2007.7.31)
③ 営業活動によるキャッシュ・フロー	6,885	4,161
④ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△151	△1,218
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,368	△1,724
現金及び現金同等物の増加額	3,364	1,218
現金及び現金同等物の期首残高	14,108	18,398
現金及び現金同等物の期末残高	17,473	19,617

Point

- 建設関連事業については、建機レンタルの地道な需要掘り起こしが奏功したうえ、同事業による販売についても当初計画どおりに堅調に推移。鉄鋼製品販売事業、情報通信関連事業がともに売上減となったものの、全体の売上高は前年同期比4.0%増となりました。
- レンタル用資産の運用効率の向上と減価償却負担軽減など、前年に続き施策効果があったこと、また中古建機市況が好調であったことから利率率が改善し、連結営業利益は前年同期比20.7%増。また、保有株式ならびに所有不動産の売却益などもあって、連結経常利益は同33.4%増、第3四半期連結純利益は同138.1%増と前年同期実績を大幅に上回りました。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは41億61百万円（前年同期比27億23百万円減）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益が47億72百万円となったことおよび売上債権の減少額が22億89百万円とその減少幅が拡大したこと等の増加要因があった一方で、仕入債務の減少額が15億73百万円となったことおよび法人税等の支払額が21億79百万円となったこと等の減少要因があったことによります。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比10億66百万円減の12億18百万円の支出となりました。これは主に有形固定資産の売却による収入が18億49百万円となったこと等の増加要因があった一方で、子会社株式の取得による支出が15億67百万円となったことおよび有形固定資産の取得による支出が18億41百万円となったこと等の減少要因があったことによります。



連結貸借対照表

(単位:百万円)	第42期第3四半期 (2006.7.31)	第43期第3四半期 (2007.7.31)
(資産の部)		
流動資産	33,054	34,401
固定資産	50,585	52,719
有形固定資産	42,729	43,464
無形固定資産	577	722
投資その他の資産	7,278	8,532
資産合計	83,639	87,121
(負債の部)		
流動負債	27,377	25,480
固定負債	21,494	21,698
負債合計	48,872	47,179
(少数株主持分)		
少数株主持分	91	—
(資本の部)		
資本金	8,596	—
資本剰余金	9,720	—
利益剰余金	14,235	—
其他有価証券評価差額金	2,320	—
自己株式	△197	—
資本合計	34,676	—
負債・少数株主持分及び資本合計	83,639	—
(純資産の部)		
株主資本	—	37,530
資本金	—	9,696
資本剰余金	—	10,960
利益剰余金	—	16,890
自己株式	—	△17
評価・換算差額等	—	2,410
其他有価証券評価差額金	—	2,410
純資産合計	—	39,941
負債純資産合計	—	87,121

とってもいいモノ・読者プレゼント

アンケートハガキをご返送いただいた方の中から抽選で、30名様にノベルティグッズを差し上げます。今回は、当社特製2008年の手帳・ボールペンセットをご用意いたしました。手帳は、手帳メーカーとして定評のあるダイゴ株式会社(www.daigo.co.jp)に依頼して作っているもの。前半のスケジュール部分は1ページ1週間タイプで、見開きの右側はフリースペース。また、後半はデータ野のひかれたメモ用のページをたっぷり設けました。高さ167mm、幅82mmと背広の胸ポケットにすんなり入る大きさです。手帳表面は、オーストリッチ風の塩ビ製で、表面の当社ロゴを織り込んだHPアドレスと、裏面のカナモト坊やはエンボス仕上げで入れてみました。この手帳、光の加減でチラッと見えるカナモト坊やがかわいらしですって思っているのは担当者だけ?是非、



来年は当社オリジナル手帳にあなただのスケジュール管理をおまかせください。

なお、応募の締め切りは11月9日(金)当日消印有効です。当選の発表は、商品の発送を持って代えさせていただきます。

連結株主資本等変動計算書 (2006.11.1~2007.7.31)

(単位:百万円)	株主資本					評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	其他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
2006年10月31日残高	9,696	10,960	14,889	△6	35,540	2,418	2,418	92	38,051
四半期連結会計期間中の変動額									
剰余金の配当			△295		△295				△295
剰余金の配当(中間配当)			△295		△295				△295
四半期純利益			2,592		2,592				2,592
自己株式の取得				△10	△10				△10
株主資本以外の項目の四半期連結会計期間中の変動額(純額)						△7	△7	△92	△99
四半期連結会計期間中の変動額合計	—	—	2,000	△10	1,989	△7	△7	△92	1,890
2007年7月31日残高	9,696	10,960	16,890	△17	37,530	2,410	2,410	—	39,941

株主様からのご質問に答える

Q & A コーナー

株主の皆様からカナモトに寄せられたご質問をご紹介します、誌上でお答えしています。

Q 株主優待制度は導入しないのですか？

A 当社の株主様への還元に対する基本的な考え方は配当金、そして時期が合致するならば株式分割と考えております。これまでは自社のサービス・製品を株主様にご提供・優待することが困難だったため、株主優待制度導入を考慮するものの、慎重にならざるを得ませんでした。このたび、東証一部昇格から10年を迎えるのを期に、株主様から日頃いただいているご支援にお応えするため、今期から株主優待制度を導入することといたしました。2007年10月末日現在(権利付最終売買日10月25日)で、1,000株以上保有する株主様1記名に対して、カナモト発祥の地である北海道の商品(3,000円相当)をお送りいたします。おいしいと人気の北海道米「ほしのゆめ」など、ホクレンショッピングカタログ「セレクトフォーユー」掲載の60品以上の中からお選びいただくものです。贈呈時期は翌年の1月下旬、年次報告書にショッピングカタログを同封するか、または別便でお送りする予定です。kca

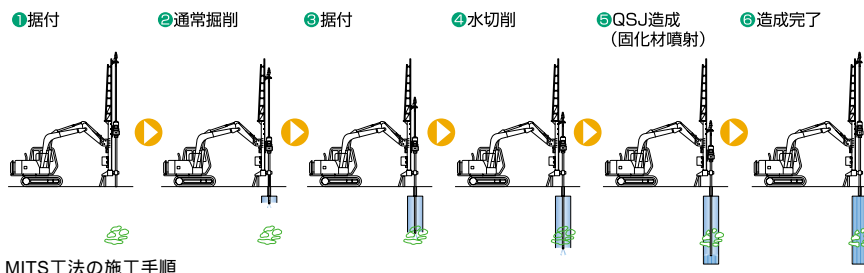
Lineup 取扱商品のご紹介

今回の取扱商品紹介コーナーでは、当社グループで基礎工事・地盤改良工事用機械の設計製作、新工法の開発を行っているフローテクノ社が一翼を担っている「MITS工法」について、ご紹介いたします。

MITS工法(Middle Pressure Injection Total System)は軟弱地盤の改良工法で、スラリー(土を固めるためのセメントを主成分としたもの)と、珪砂(粒子の大きさを揃えた細かい、粘土分の少ない品質の良い砂)を混ぜたものを地中で回転しながら四方八方に噴射することで、盤石な地盤へと改良するシステムです。実は小誌本号表紙のイラストが、このMITS工法による地盤改良工事のものなんです。

ところで、MITS工法には数多くのメリットがあります。第一に地中に障害物がある場合でも取り除かずに地盤改良をすることができること。また、仮設足場が不要であること。この二点から工期が大幅に短縮でき、コスト削減につながります。第二に機械本体が小型なので、狭い現場でも使用が可能なこと。そして第三に噴射圧力を中圧にすることで周辺地盤への影響も少なく、建造物が密集する地域でも工事ができること。また、この工法により発生する排泥も現場内で埋め立てるための資材として再利用できるなど、極めて優良な工法といえます。言わば「一粒で二度おいしい」工法ですね。kca

	MITS工法 (中圧噴射システム)	従来工法 (高圧噴射かくはん工法)
障害物がある場合	そのまま施工可能 1工程で施工できる	別途削孔機械が必要 2工程で施工する
使用する機械	バックホー型 小型(9t~25t)	ボーリングマシン
仮設足場	不要	必要
噴射圧力	中圧 (周辺地盤への影響少)	高圧 (周辺地盤への影響の可能性有)
排泥	発生する	発生は少ない



株価チャート(週足)



株価および売買高(東証分のみ。単位:円、出来高は千株)

	始 値	高 値	安 値	終 値	出来高
2006年 9月	1,053	1,062	863	887	3,617
10月	890	890	820	846	2,473
11月	833	852	700	829	1,609
12月	819	875	811	843	995
2007年 1月	848	920	848	915	1,436
2月	923	996	905	958	2,009
3月	959	1,029	945	1,024	2,111
4月	1,025	1,158	1,002	1,153	1,908
5月	1,159	1,233	1,120	1,225	1,799
6月	1,226	1,358	1,212	1,340	1,618
7月	1,355	1,355	1,154	1,195	1,378
8月	1,214	1,214	961	1,026	1,863

株主メモ(2007年9月30日現在)

資 本 金	96億9,671万円(払込済資本金)
発 行 株 数	32,872千株(発行済株式総数)
決 算 期	毎年10月31日(年1回)
株 主 総 会	毎年 1月中
同総会議決権行使株主確定日	毎年 10月31日
利益配当金受領株主確定日	毎年 10月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年 4月30日
公 告 の 掲 載	当社ホームページ、日本経済新聞*

お手持ちの株券に関するお手続きのほか、住所、名義、届出印、配当金の振込み口座などの変更をご希望の場合は、下記<株主名簿管理人>宛てにご連絡をいただきたく、お願い致します。なお、株券を証券会社に預託されている場合は、当該証券会社へご連絡下さいますようお願い致します。

株 主 名 簿 管 理 人	三菱UFJ信託銀行株式会社
事 務 取 扱 場 所	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵 便 物 送 付 先	〒137-8081
お よ び 電 話 照 会 先	東京都江東区東砂7丁目10番11号 電話 0120-232-711(フリーダイヤル)
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店

* 当社公告の掲載につきましては、当社ホームページ(<http://www.kanamoto.co.jp>) または <http://www.kanamoto.ne.jp> に掲載いたします。
なお、やむを得ない事由により、ホームページに公告を掲載することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主の皆様へ 株券の電子化についてのお知らせ

株券の取引等がより安全かつ迅速に行われることを目的として、2004年6月に「株券の電子化」に関する法律が公布されました。これにより、上場会社の株券は2009年6月までに電子化されます。具体的な実施日は政令で決定されますが、2009年1月を実施目標として準備が進められています。
「株券の電子化」の詳細につきましては、日本証券業協会 証券決済制度改革推進センターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先
証券受渡・決済制度改革懇談会事務局 TEL. 03-3667-4500
ホームページ <http://www.kessaicenter.com/>

編 集 後 記

ここは熱帯かと思うほど今夏は酷暑続きでしたが、9月中旬を過ぎた途端に秋めいてきました。四季に感謝しつつも夏と秋の間の土用はどこへ行ったのやら。地球温暖化、心配です。
ところで安部首相突然の退陣には驚かされました。マスコミのイジメに耐えかねたのでしょうか。最近の報道に偏りや行き過ぎを感じつつ、一方で良しとする自分がある。日本はイジメばかりなのか。人の心にも異常気象が蔓延しているようです。
さて。当社もまた、この3ヵ月間で上方修正等々に、債権格付はBBB(JCR)に昇格、そして立会外売と、新しい局面を駆け抜けています。株主様の資産価値を高めるべく掲げた目標に一步また一步と近づいております。目標といえば、ファイターズも2年連続のリーグ優勝を果たしましたし、コンサドーレ札幌は現在、J2優勝そしてJ1昇格に向けて頑張っている最中。北海道も明るい話題が続きそうです。両者に通ずるのは人を活かす監督がいること。当社も社長を中心に一丸となって勝利を得られるよう一層鍛錬して殊にあたりたいと思います。引き続き皆様のご支援をお願いいたします。☑

拠点ネットワーク

カナモト アライアンスグループ

連結子会社

- 株式会社アシスト (10拠点)
- 株式会社SRGカナモト (3拠点)
- 株式会社カナテック (7拠点)
- 第一機械産業株式会社 (9拠点)
- 株式会社カンキ (7拠点)

非連結子会社

- 株式会社コムサプライ (5拠点)
- フローテクノ株式会社 (2拠点)
- 九州建産グループ (4社20拠点)

アライアンス提携会社

- 町田機工株式会社 (15拠点)
- ツールレンタル事業 (5拠点)

■当社及び当社グループ営業拠点エリア別内訳 2007年9月現在

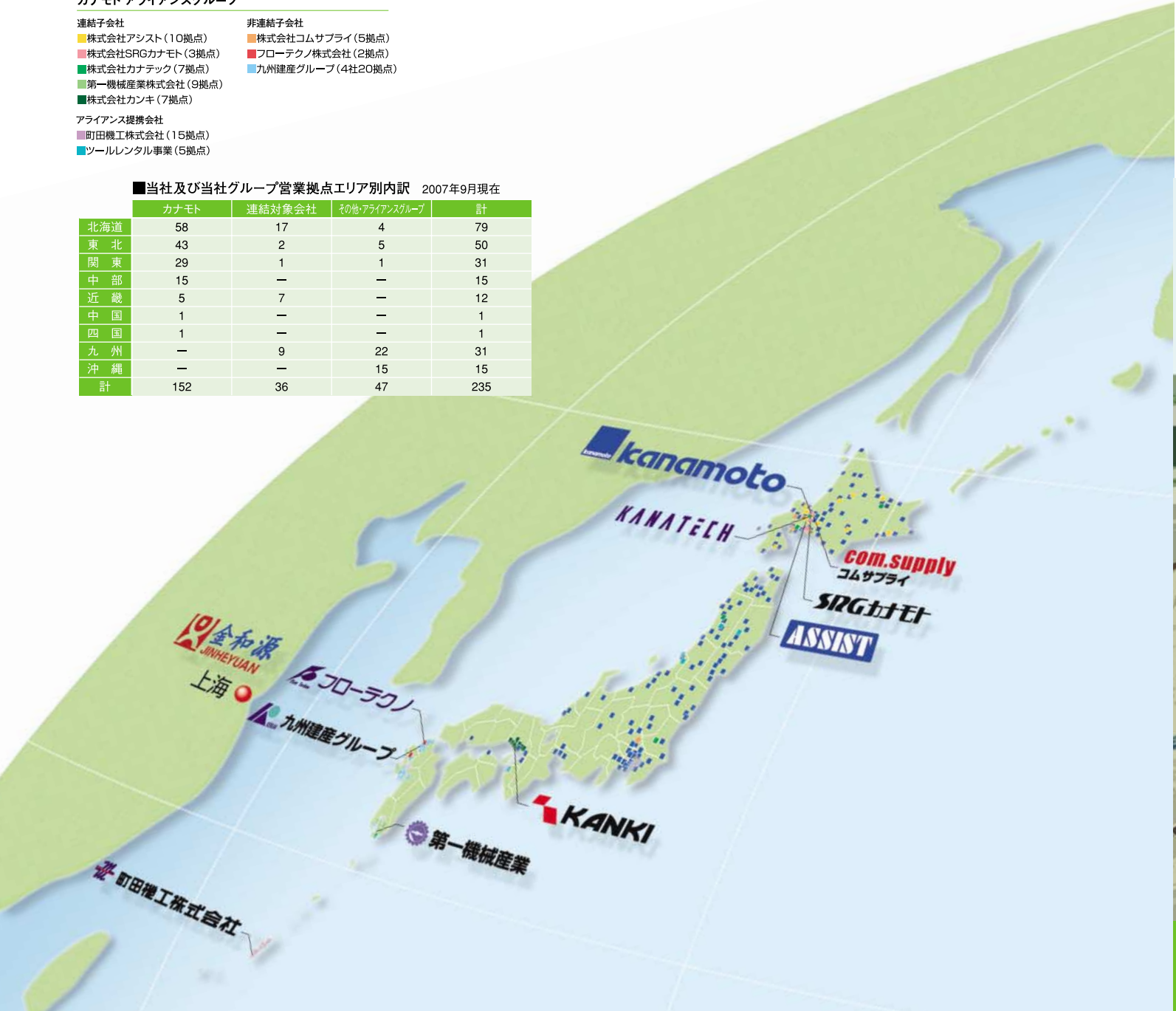
	カナモト	連結対象会社	その他アライアンスグループ	計
北海道	58	17	4	79
東北	43	2	5	50
関東	29	1	1	31
中部	15	—	—	15
近畿	5	7	—	12
中国	1	—	—	1
四国	1	—	—	1
九州	—	9	22	31
沖縄	—	—	15	15
計	152	36	47	235



2000年10月10日現在再生紙不使用



本誌は、再生紙と大豆油インキを使用しております。



株式会社 **カナモト**

(東証一部・札証 証券コード: 9678)

〒060-0041 札幌市中央区大通東3丁目1番地19

Tel : (011) 209-1600 (大代表)

<http://www.kanamoto.co.jp>